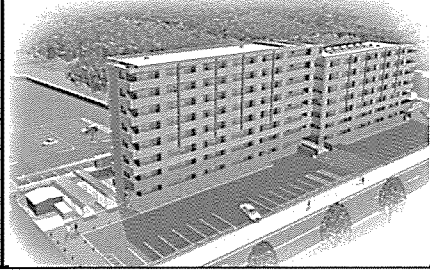


CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.8)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三宅団地 建替第2期	階数	地上8F
建設地	京都府舞鶴市	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域 法22条地域	平均居住人員	150 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,000 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年8月 予定	評価の実施日	2014年5月20日
敷地面積	5,239 m ²	作成者	空額舎 岩田
建築面積	1,033 m ²	確認日	2014年5月20日
延床面積	5,018 m ²	確認者	空額舎 岩田



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.8</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★</p>	<p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア= 2.7</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.7</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.4</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 2.9</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.8</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>・「良好な住環境」緑豊かな配置計画・日照通風、プライバシーの確保・安心、安全な計画・ユニバーサルデザインの導入 ・「周辺環境への配慮」外壁後退及び建物ボリュームの抑制・プライバシーの確保 ・「魅力あるまちづくり」高密度化による有効空地の拡充・開放感のある緑豊かなパファゾーン・建物、工作物のデザインによる。 ・「ローコストな計画」:イニシャルコスト、ランニングコストの削減</p>	<p>その他</p> <p>・地下ピットの大きさを必要最小限の高さに限定するなどして、掘削量を極力少なくすると共に、残土についても建物周囲や駐車場等の地盤レベルを出るだけ高く設定して、場外への処分量を減らす。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>・より良い住環境を得るため、住戸のバルコニーは南向きとし窓を大きく取り、昼光利用と自然換気に配慮する。 ・隣接住戸との界壁。床は遮音に配慮した仕様とする。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>・バリアフリーを重視し、住戸内では玄関等を引き戸を採用し、床の段差の解消・浴室手摺り・扉の開口幅確保に考慮する。 共用部では車椅子対応のEVの設置・廊下幅員、段差解消、防滑仕様床仕上げを計画する。</p>	
<p>LR1 エネルギー</p> <p>・外壁、窓等を通して熱の損失の防止の為、省エネルギー対策等級(3等級)(住宅性能表示基準)を確保する為の躯体断熱を計画する。 ・昼光利用、通風・自然換気など、自然エネルギーを最大限利用する為、南側にバルコニーを計画する。7階以上に太陽光パネルを計画し自然エネルギーを利用する。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>・躯体の断熱材として、現場吹付けノンフロン硬質ウレタンフォーム断熱材を採用する。 オゾン層破壊、地球温暖化に影響を及ぼすフロンガスは一切使用せず、水をイソシアネートの反応で発生する炭酸ガスに依り発砲(水発砲)する地球環境に優しい材料を利用する。</p>	
<p>LR3 敷地外環境</p> <p>・気象庁舞鶴海洋気象台での観測データと3次元風環境シミュレーションシステムプログラムを利用して建築後の敷地環境を数値シミュレーションし、敷地周辺の風環境及び温熱環境に大きな影響を与えない建物形状及び住居配置を検討した。(基本計画時点)</p>		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命・省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい